

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2892000239		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームあかし魚住東		
所在地	明石市錦が丘3丁目4番地13		
自己評価作成日	H27年2月	評価結果市町村受理日	平成27年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成27年6月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街にあり、地域住民の一員として回覧板が回ってきたり、地域の取り組み(お祭り、勉強会、ウォーキングラリー等)に参加させて頂いています。  
 季節ごとにイベントを開催し四季を感じて頂いています。  
 誕生日には手作りのケーキで皆さんでお祝いしています。  
 入居者様の希望に(外出したい場所・食べたいもの等)出来るだけ応じられるように努力しています。  
 家族様の来訪が多く入居者様との信頼関係を築くよう努力しています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

閑静な住宅街に4年前に開設した事業所である。開設の当初は地域との交流も少ない状況であったが、今では近隣の中学校へ花壇作りに出かけたり、自治会の広報誌の印刷を引き受けたり、町内での花火大会やお祭り等には積極的に協賛して参加もできるようになっている。  
 職員は一人ひとり、広報、食事、環境管理、物品等の専門部会に所属して活動し、自由に提案できる雰囲気があります。課題によっては法人主催の「向上委員会」に取り上げてもらい、「自立支援報告書」の好事例として事業所間で共有することもできるようなシステムが動いています。3年前には支援困難な状態で入居した方が職員の生活支援や地域の馴染みの方々との支援により改善、退所した事例があり、本人の努力はもちろんのこと、入居者本位の介護の姿勢が実ったものと考えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホーム魚住東

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂全体の理念があるが、地域密着型サービスの運営理念があり、玄関に閲覧出来るようにしている。職員全員が共有することは今後の課題である。	法人の理念にある三つの項目を事業所のチラシや利用者、家族、来訪者等にも目につく玄関の壁面に掲示している。また法人のビジョン「笑顔の職員を500名とする」から採った「笑顔」を大きな文字にしたため額に収めている。	事業所が目指すサービスのあり方を現場の職員自身が考え、事業所の理念を職員で共有できるよう、具体的にわかりやすい実践しやすい言葉を標語等として挙げたら如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加を行い、地域の回覧板が届き、情報などを頂けている。	事業所は住宅地域にある。自治会の機関紙である「錦が丘だより」の発行に協力して印刷を引き受けている。6月には音楽会、ウォーキング、喫茶等のイベントに参加予定であり、地域との関係が深くなってきている。	事業所のふれあい喫茶のお手伝いとして、地域住民がボランティアとして来訪してくれるが、これからは、地域住民との交流の場として参加できるように期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゾーン会議(地域会議)に参加し、認知症の勉強会などを行い、地域の皆様に知っていただく取り組みをこちらの方でしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での貴重なご意見をいただき、議事録を玄関に閲覧できるようにはしている。会議内では、利用者さまやサービスの内容などをご報告させて頂いている。	入居者の家族全員にハガキで会議開催の案内を返信にて出欠席の有無をもらい、あれば意見等も収集している。会議に参加する家族は常時6~7名の決まった方である。欠席の方には会議録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石市の方より、『ふれあい介護員』の方が2名こられており、ご入居者様とお話しをいただいている。	運営推進会議に自治体の参加はないが、日頃から地域包括支援センターとの連携は良い。また明石市のふれあい介護員は受け入れている。自治体との緊急連絡にはFAXを使って通信し、事務的な折衝については法人本部が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の新入職員研修と年1回内部研修を実施し、身体拘束の防止に努めている。玄関とユニットの入り口の施錠に関しては防犯と安全面から施錠しているが、利用者の希望時には開錠を行うよう努めている。	防犯と安全面から門扉やユニット入り口は施錠している。施錠の理由を居室内側の扉に貼っている。希望に応じて開錠することはある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の新入職員研修で高齢者虐待防止に関する研修を行っている。また、事業所内でも年に1回研修を実施している。入浴時・衣類の更衣時などに、利用者の身体状況の確認や、日々の生活の中での感情の変化なども観察するように努めている。	入社時の職員研修や年間研修計画にとりいれて虐待の防止に努めている。管理者は職員と個人面談を行い、情報収集をして精神面の健康管理などにも気を配っている。スタッフ間の意思疎通にも配慮している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度事業所内で研修を実施した。現在は権利擁護利用のご入居者様はおりませんが、今後も継続をしていく。	入居者には、現在この制度の利用者はいない。将来、ご家族の状況変化などにも配慮しこの制度についてわかりやすい、利用し易い資料の提供、情報収集などに気を配っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、御家族様への説明、ご質問などをしっかりお聞きし、契約を実施している。先日、薬局の変更を行った際にも、すべてのご家族様へご説明を行い、ご理解、ご了承を頂けた。	入居までの手続きについてわかりやすくフローチャートを作成して、チラシ等とセットにして説明している。入居契約書と利用契約書の2つを1～2時間をかけて丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様からのご意見を頂いている。	年1回は、法人独自で家族の満足度調査を行っている。その集計結果等を運営推進会議で報告している。2ヶ月に1回の運営推進会議も参加、不参加にかかわらず要望などを聴く機会となっている。外出先や日常生活での要望にも対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は聞く機会を面談や、日常の会話で引き出し、管理者MTGなどで管理者同士が話し合う機会がある。	職員は専門部会(広報・食事・環境管理・物品等)に所属して自由に提案等を行っている。月2回のケアファレンスには自立支援報告があり、法人全体としての「向上委員会」に繋げている。休憩室にある自由に書き込める提案ノートからもテーマが揚がることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の状況報告等を管理者から代表者へ伝わるような仕組みの『執行役員制度』を昨年より実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の本部指導のステップアップ研修や、ケアマネ、介護福祉士等を受験する、資格習得サポート研修を実施している。また、職員が受けてみたい研修等を勤務調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との勉強会など、地域のGH連絡会などで企画をして発信は頂けるが、参加までには至らず。ただし、社内事業所同士の交流会は開催している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でお話をお聞きさせて頂き、ご入居頂いたあとも、アセスメントを心がけ、本人の要望等をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でお話をお聞きさせて頂き、ご入居時にもご不安なことやご要望などを詳しく聞きし、内容を職員へ伝達している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様の暮らしに必要な支援を見極め、当面の介護計画書を作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は『共に暮らす』事を教育している。介護職員としてだけでなく、ご入居者への心配りが出来るよう思いを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にご本人様の様子をお伝えさせて頂いたり、話しやすい環境作りに努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、馴染みのお店に行かれ、今までのお付き合いを継続されている方もおられる。知人の来訪もあり、関係性を継続させて頂いている。	デパートの通信販売に参加したり、行きつけの美容院を利用したり、魚棚商店街でアナゴの買い物をしたり、入居者本人が出来ることは何でも自分で継続し続けるように支援している。その結果、2年越しに精神面で落ち込んでいた方が改善した事例があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご入居者様同士で挨拶や会話をされている。また、ご自分から馴染めない方は職員が仲介に入り、日々交流がある。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のグループホームへご入居された方には職員が顔を見に行かせて頂いている。		
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の行動には意味があることを常に考え、支援させて頂いている。本人様の今の暮らしに何が足りないのかを職員同士話し合いを持っている。	入居者一人ひとりについて担当介護職員をきめ、食事場面や生活状況の中で本人の言葉や態度から意向をくみとるようにしている。聞き取り困難な入居者は本人表情や家族からの意向の把握に努めている。申し送りノートを活用し、日々職員間で情報の共有化をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を作成している。ご入居前に関わりがあった事業所にお聞きし生活環境を支援できるように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様のADL表を作成し、身体状況の把握を再度行えるよう取り組んでいる。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とカンファレンス等で話し合い、主任と計画作成担当でモニタリングを実施している。今後の課題として、職員でのモニタリング作成が可能になるよう、発信していく。更新時には本人様、御家族様の意向を確認している。	ケアカンファレンスを毎月開催し、課題のあるケースについて皆で検討している。困難な事例であっても目標が達成するまでの過程を「向上委員会」で取り上げ、チームで共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録作成と、申し送り伝達を行い情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	鍼灸マッサージを希望された方には週に1~2回来ていただいている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや、毎月のふれあい喫茶・2ヶ月に1度の歌声喫茶に参加させて頂いている。今後は図書館へも、ご要望をお聞きし、出向いて行けるよう取り組む。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療機関以外のかかりつけ医に通われている方もおられる。日常の往診医と連携を行って頂いている。	家族の希望により入居者のうち一名は今まで通りのかかりつけ医に家族の付き添いで受診している。他の入居者は協力病院へ家族又は職員が付き添いで受診する。事業所への定期的な往診は受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に1回来て頂いている。事前情報を作成し、相談をし、アドバイス等頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医療機関に入院された方への情報交換は行っている。他院へ入院された方へはADL表で情報提供行っている。	意識が急に低下した方を速やかに見つけ、協力病院に緊急連絡をして入院手続きをした。医療機関側とは、日頃から情報交換をしていることからスムーズに医師や家族とも連絡がとれた。又退院時は計画作成担当責任者がカンファレンスに参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設後、終末期の対応は行っていないがカンファレンスを用い状態の変化時に対応方法等話し合う時間を持っている。	看取り介護指針を作成し、終末期の対応について入居時に説明している。現在、対象者が一名おられる。訪問看護サービスを受け、医療的な相談等は看護師が行っている。	看取りについては指針も準備されていますが、いざという時に混乱しないように、図式化してよりわかりやすくしたら如何でしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時にチャートを用い、連携している。また、管理者へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備える為、年に2回以上、総合訓練(消火訓練・避難訓練・通報訓練など)を実施している。事務所・各フロアに消防署への通報の方法、本社等への連絡方法を表示している。	災害時の避難対策を昼夜とも検討している。毎年5月には昼間を、11月には夜間を想定して避難訓練を実施している。近隣住民に案内はしている。災害時の非常食の備蓄は飲料水やラーメン等である。	事業所は閑静な住宅街に隣接しているため、近隣住民との話し合いを十分に行い、連携して実践的な取り組みのための工夫をすることを期待します。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修の際にご入居者様は人生の大先輩であるため、尊厳を持ってお声掛けをするように伝え、現場でも職員同士で言い合える環境がある。	入職時には法人の接遇研修を行っている。職員と管理者との個人面談時には、利用者のプライバシーを損ねないように留意している。職員の言葉かけ、語調等、時には友達感覚で利用者に話すことのないよう日常的に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の食の好みや、お茶の好みに合わせたものを提供させて頂いたり、生活の支援にもご本人様にお聞きすることを優先とし、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、買い物、外出等、伺いながら支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、行きつけの美容院や、床屋さんに同行し、出向いて頂いている。行事の時や、外出時のお洒落をご自分でされることもある。入浴時の着替えもご自分で用意されている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットご入居者様のカラーもあるが、ご入居者様と職員と一緒に準備したり、関わりを持ちながら、行っている場面が多い。ご自分で下膳される方もおられ、ひとりひとりが出来る事をしている。	訪問当日の昼食時には入居者の一人が職員と一緒に下膳や食器洗いの片づけをしていた。毎週木曜日の食事レクには、個人ごじんの力を活かしながら、買い物や調理等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前から少食の方や見た目が多いと食が進まない方へは食べやすさを配慮し、水分の少ない方にはお好きな物、飲んで頂けるものを提供し、チェック表を作成している。体重測定をグラフ表にして変化を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを声かけさせて頂き、促すようにしている。ご自分から進んでされる方もいる。全て職員の介助ではなく、出来るところまでのご自身でして頂く。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外のご入居者様の尿意・便意のあるかたは希望時にトイレ誘導をさせて頂いている。不明の場合は排泄間隔を考慮し、対応させて頂いている。	排泄チェック表で入居者個人のリズムを把握し、パッド使用者へはさりげなく「大丈夫ですか」と声かけし、確認を行っている。ターミナルの入居者には昼間はトイレを利用するようにし、夜間はオムツを使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルトや果物の提供やオリゴ糖を使用している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様のご希望をお聞きし、入浴のお声かけをさせて頂いている。毎日ご希望の方も対応させて頂いている。	本人や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、毎日入浴希望の方には毎晩7時半に入浴してもらう。入浴拒否の方には蒸しタオルを提供して本人が清拭をしている。12月には柚子風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の入浴対応や、夜間、空腹での不眠を訴える方にも、軽い食べ物を提供する等、就寝時間等は決まっておらず、御本人の安眠環境を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の開示がしやすいようにし、薬によって禁止物がある場合、徹底していき、2名確認、本人の前で再確認し服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当日の食事メニュー書きや、カラオケ外出など、楽しみや日課への支援をさせて頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪、買い物、散歩、お墓参り等、様々な場面での外出を支援させて頂いている。	好みの美容室へ行ったり、近くのすし屋やうどん屋へ外食に出かけたり、自ら行きたい希望者は出かけている。散歩が好きな入居者は職員と一緒に出かけている。木曜日の食レクの買い物には、出かけることが出来る利用者と職員は買い物に行く。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を所持し、金銭管理をいっておられる方は1名で、その他の方は、立替払いにより、購入されている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をお使い頂き家へ連絡される方や、季節ごとのお手紙等をお出しになれる方もいらっしゃいます。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を出すために、フロアに写真を掲示したり、季節ごとの飾りつけを行っている。また、居心地良く畳で昼寝が出来る環境がある。	フロアには畳の間があり、冬にはコタツが好きな入居者は利用したことがあった。フロアの広さは大き過ぎず、トイレの扉には案内が分かり易く表示してある。季節の行事写真は飾り過ぎず、話題のきっかけ作りに活用している。又入居者が描いた絵画が飾られてある。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでのくつろぎを好まれる方が多く、気の合うご入居者様同士で過ごされており、畳のコタツを好まれる方も職員と一緒に楽しく過ごせるように環境を作っている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を置き、毎日拝まれている方もおり、自室内がご自身のもので囲まれている空間への配慮をしている。また、御家族様にもお願いしている。	一人ひとりの希望を聞き入れ、布団を使用する入居者やベットのレンタルをする入居者など、個別化がある。また茶碗や箸等の好みの器を使い、日常を過ごしやすい環境に整えている。仏壇を自室に持ち込まれている方は一日2回拝み、自宅のように過ごしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはわかりやすく、『使用中』『空いています』の札をご入居者様がお書き下さり、付けている。		